



ハリウッドに 寄り添う素足の 貴婦人

ボンバドール

高野てるみ
映画プロデューサー、巴里映画代表

50周年カンヌ映画祭の新しい波

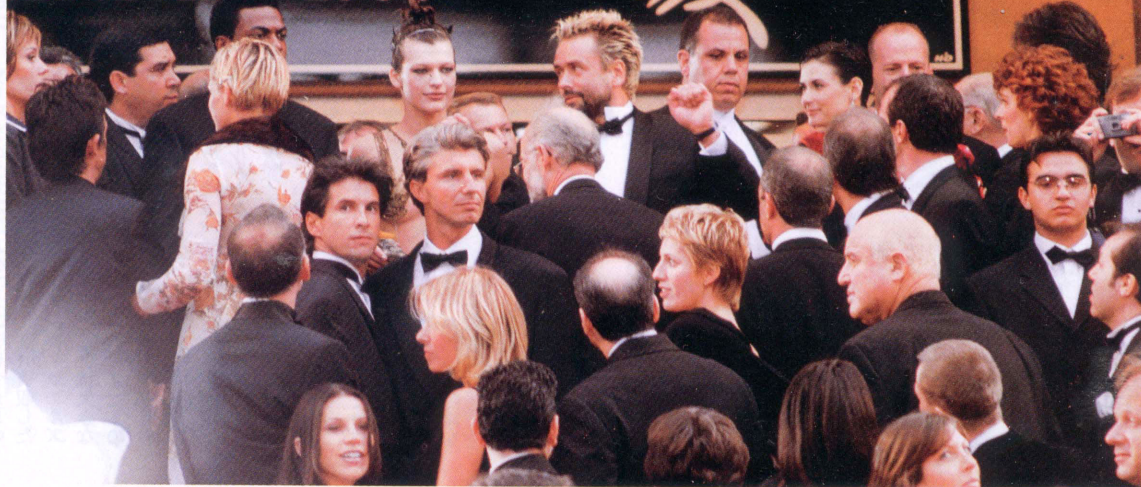
世界に名だたる映画祭の中でカンヌ映画祭は別格である。世界じゅうの有名人がバカンスを過ごすフランスの高級リゾート地カンヌで開催されることもあって、その華やかさは他に類を見ない。映画祭が開かれている間じゅうメイン会場はもちろん、名だたるホテル、そして明け方近くまでにぎわうカフェが、スター、映画関係者、そして観光客たちで満席で、まさに映画のシーンさながらの非日常的雰囲気を作り出す。各国が誇る、未公開で最新、出来たての映画をえりすぐり、最高峰を選びぬくコンペティション、それが、この映画祭のメインイベントである。連夜次々と上映される作品を観る者は全員が正装を強いられる。2000人以上が思い思いのいでたちで会場入口の階段を昇っていく様子は、華麗、エレガントのひと言につきる。

さて、この快感を味わい、さらに観客の受けも良く、最終的にグランプリだの監督賞だのと評価されたら、どんな映画製作者も人生最大の糧を得たと思うのは当然である。アカデミー賞は世界的に超メジャーとされている

オープニングの特別上映作品もアメリカナイズされたフランス映画といおうか、ハーフェイメドのフレンチ・アメリカン・ムービーといおうか、リュック・ベッソン監督『フィフス・エレメント』



INTERNATIONAL DU FILM
ANNES 1997



赤じゅうたんを昇ってメイン会場へ……。その作品の監督、プロデューサー、スターと共に映画関係者を中心にゲストたちが正装して上映会を盛り上げていく。』
Photo by TRAVERSO